



第9号
 編集発行／碧南市
 哲学たいけん村
 無我苑
 所在地／碧南市坂口町3-100
 〒447：TEL. 0566-41-8522
 ：FAX. 0566-41-7761

久田 治男 (ひさだ はるお)

1931年 愛知県碧南市長

主な個展

1974～86年 ギャラリーアトリエ(碧南)

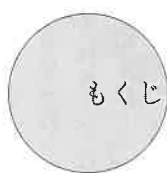
1975～, 77, 80, 82年 桜画廊(名古屋)

1979年 ギャラリーL(豊橋)

夢土画廊(東京)

1982年 紀伊國屋画廊(東京)

(瞑想回廊第9回企画展示)
 9.10.7～12.21開催



- ・〈家族〉の原風景
- ・平成9年度前期哲学講座の記録
- ・秋韻 篠苗の世界
- ・エンカウンター・グループへのお誘い
- ・本の情報
- ・村民に関するお知らせ
- ・来村者の声

瞑想回廊第9回企画展示

家族

久田治男展
 野外劇-終演の残像

U G
 M A
 碧南市哲学たいけん村無我苑
 E V

冥想回廊第 9 回企画展示

「野外劇―終演の残像」によせて

会期 9・10・7〜12・21

《家族》の原風景

角谷 道仁

わたし（たち）が存在とは何か、自分

とは誰か、人間とは何者か、家族とは誰か、人間が生きる固有の存在形式としての時間とは何か、空間とは何か、と問いつけるとき、すでにそういうところの風景を喚起する表現―心像―絵をわたし（たち）のここは求めていてということができるかもしれない。久田治男氏の絵は、この存在そのものを基底とする人間のこのころの原風景《家族》における終演の残像というべきものをその厳しい思想と技法でわたし（たち）にさし示しているように思われる。ふつう油彩といえ

ば、幾層にも塗り重ねられた色彩の奥から発する微妙に屈折した光の放射像、マチエールの絵を創造するけれども、久田治男氏の絵の技法はその対極に在るといふことができると思う。その技法は、ほとんど透明に近い、薄い色彩を丹念に時間をかけて塗り重ねてゆくということを基本にして獲得された作者独自のものであり、この技法によって作者は単純でありながら、純粹な世界のイメージの究極の相を《野外劇―終演の残像》として提

示しているのだ。

かつて、吉本隆明は共同幻想論における《対（つい）幻想》において、《家族》の本質を一對の男女の性の幻想の關係として措定しているが、こういう視点に立つとき、久田治男氏の絵に描出される《家族の肖像》、あるいは「対なるエロス」をどのように理解すればいいのだろうか。



〈手〉

わたしは取えて言うならば、一對の男女の《性》の幻想を見定めながら、ここには、ほとんど《無性》に近い人間の《性》の光景が表現されているように思われる。そして、ここに表出される長い影をひいた無言の人物像、ここに描出される「家族の肖像」には首がない、顔貌が無いと指摘することもできるが、このことが象徴するものこそ、一對の男女の性の幻想にかかわる《無性》の性、純粹のそして、この表現の究極で獲得されたものこそ、自己や家族を相対化し、遠隔化するところの久田治男氏の表現の厳しさ、人間のこのころの永続性、普遍的相であるように思われるのだ。（詩人）

平成9年度前期哲学講座の記録

主テーマ 「日本に來た達磨」

期間 平成9年5月24日〜6月28日

毎週土曜日（全3回）

各単位のテーマは、「達磨、聖徳太子に会う」（第1回目）、「達磨、両手両足を失う」（第2回目）、「達磨、七転八起を説く」（最終回）。

講師 久野昭氏（中京女子大学人文学部 部長）

《受講者の感想》

何気なく使い、接してきた「だるまさん」から、こんなにも沢山、歴史や変化をたどり、面白く、また驚きも興味も尽きませんでした。私の「だるま」にまつ

わることは、今後何かに接するたびに何かしらの講座の影響を受けていくでしょう。受講前はだるまに特別な興味はありませんでしたから。（Y・I）



秋韻 篠笛の世界

碧南市哲学たいけん村無我苑 開村5周年記念事業

村民の有志で結成された「哲学たいけん村開村5周年記念事業実行委員会」が横笛奏者、鯉沼廣行氏、和太鼓、シン・岡部氏ら4名の招聘を計画、10月10日祝日、日本庭園、冥想庭園を舞台に演奏会が開かれ、来苑者370人が初秋の一夜を満喫した。

当日、午前には記念茶会「茶のつどい」が開催され、碧南文化協会茶道部からご協力をたまわり、立札茶席、研修道場、市民茶室で呈茶がなされ、3席の共栄が席入りされた方々に大好評。大茶会、野外コンサートの本立による今回の記念事業の成功は、ひとえに茶会席の先生方、多数のお弟子さん、そして事業実現に向けて奔走して下さった実行委員会スタッフの方々のおかげであり、ここに感謝の意を送りたい。

《野外コンサート参観者の声》

拝啓、各地では運動会が華やかに幕を閉じ、秋は紅葉とともに深まってまいりました。

先日は、無我苑でのコンサートを参観させていただきました。有難うございました。お天気にも恵まれ、月と星も仰ぎ見ることのできる素晴らしいお庭で、この様な街中にこんななまで静かで心安らぐ場があるなんて不思議に思うほど、横笛の音色に、しばしうっとりとしてしまいました。
(海部郡七宝町 K様)



お知らせ

●梅原猛名誉村長新春特別講演会

とき 平成10年2月1日(日)

ところ 碧南市文化会館

演題 「出会いと運命」

入場料 無料(要整理券)

エンカウンター・グループへのお誘い

精神医学の分野で用られる「エンカウンターリング」という用語は、今や、日常的に使われ、知らない人はいないが、果して「エンカウンター・グループ」と言った場合、どのくらいの人がこの言葉の意味を理解できるだろう。

「エンカウンターリング」は個人的な心的問題を解決するのに対し、「エンカウンター・グループ」は社会的問題の解決に取り組む。さらに言えば、個人的問題を集団が共有することによって、社会的問題としてアプローチすることを目指している。

たとえば、勤労者に対するストレスの要因は社会の複雑化に伴って、多様化してきている。過労、不況によるストレスはもとより、社会的規範に適合しようとして過剰適応する障害まである。

「エンカウンター・グループ」は、お互いが心を開いて話し合える、自由で安全な場所を提供する。知的、批判的な対話よりも感情を重点的に考え、コミュニケーションにより、相互の交流を深めるためのものである。

日時 平成10年2月27日(金)～3月1日

(日)(2泊3日)

会場 哲学たいけん村無我苑研修道場

(宿泊地 勤労青少年水上スポーツセンター)

参加費 20,000円(宿泊費、食費、茶菓子代を含む)

茶菓子代を含む)

本の情報

●吉川弘文館

歴史文化ライブラリー7

『日本人の他界観』

久野 昭

古来、日本人は死後の世界「他界」に親しみを抱いてきた。それは外来宗教の受容とさまざまな変遷をへて平安時代に定着する。この他界観を、現世に生きる者の眼で再構成し、そこにこめられていた日本人の思いを追求する。



●アトリエ出版企画

『発語』に関するノート』

角谷 道仁

「発語」における自分とは誰か？発語の構造、存在の二重性を問う。

村民に関するお知らせ

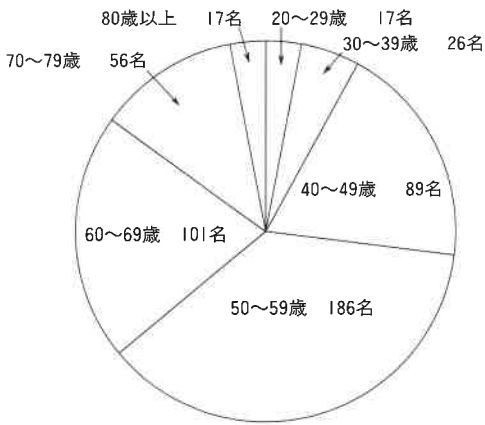
●住所変更等に関する変更手続き

住所等の変更は、電話でその旨ご連絡いただき、次回更新の際、手帳に変更記載することとします。郵送に不都合が生じないよう、忘れずにご連絡くださるようお願いいたします。



●哲学たいけん村無我苑村民登録状況

今年度より開始された村民登録制度は11月18日現在で登録者数が492名に達しました。



◎年齢別登録状況

所在地	登録者数	所在地	登録者数
碧南市	242名	高浜市	18名
名古屋市	30名	豊明市	15名
岡崎市	21名	知多郡	11名
半田市	6名	幡豆郡	12名
刈谷市	24名	その他	35名
安城市	39名	県外	10名
西尾市	29名	合計	492名

◎所在地別登録状況

村民人口の内訳 (平成 9・11・18 現在)

◎登録者数 492名

男性 300名

女性 192名

来村者の声 (アンケートより)

◎いろいろな心悩むことが多いとき、リラックスできる空間が気に入りました。

(市外 看護婦)

◎友達に紹介します。すでに来たことのある友人もたくさんいますが。

(長久手町 主婦)

◎静かな気持ちで一時を過ごすことができ、また来たいと思いました。池底に瓦を使ったアイデアがいいですね。

(蒲郡市 女性)

◎来村して、とても優しい気持ちになりました。現世が無味乾燥であるかぎり、心の潤いを得られる空間は、人が生き永らえるために必要であると感じました。

(岡崎市 会社員)

◎瞑想回廊の中での私語は、響きます。それだけが残念です。

(名古屋市 鍼灸師)

◎メタルカラージュの「哲学的なことば」が良かった。

(名古屋市 販売員)

◎独特の時形態が流れていて、とても心地よかった。

(刈谷市 学生)

フォト

秋韻 篠笛の世界 コンサート風景



右は金子由美子氏



鯉沼 廣行氏



シン・岡部氏